

◎基本目標 4 みんなで考え行動アップ

○基本施策 4-1 環境教育・環境学習の推進

●施策 4-1-1 自然・環境学習関連施設の事業の推進

【環境指標】 (評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善)

指 標	平成 26 年度 基準	令和 3 年度 実績	令和 4 年度 現状・評価	令和 7 年度 目標	担当課
自然環境学習に関する 行事等の年間実施状況 ※	21 回 466 人	16 回 316 人	20 回 414 人 評価：○	25 回 500 人	根本山自然 観察センター 鬼怒水辺観察 センター
自然環境教育に係る年間の 学校等団体利用状況 ※	56 団体 2,200 人	38 団体 1,172 人	40 団体 1,336 人 評価：○	45 団体 1,800 人	

※ 根本山自然観察センターと鬼怒水辺観察センターの両施設における実施・利用状況

【施策の展開状況】

・根本山自然観察センター、鬼怒水辺観察センターでは、施設区域の森林や水辺環境を保全し、その自然環境を活用した自然体験教室の開催や展示等により環境学習を推進します。

- 根本山自然観察センターでは、里山の生き物観察や調査、自然の恵みを素材に使ったクラフトづくりなど、一年を通して里山の自然に親しむ「しぜん体験教室」を 18 回開催し、延べ 385 人の参加がありました。また、学校等の団体の利用は、36 団体 1,132 人ありました。
- 鬼怒水辺観察センターでは、水辺の生き物とふれあう「鬼怒水辺ふれあい観察会」を 2 回開催し、延べ 29 人の参加がありました。また、学校等の団体の利用は、4 団体 204 人ありました。

・自然教育センターでは、市内小中学校の児童生徒が、鬼怒川河川敷の自然を利用した集団宿泊体験活動を通して、河川の環境学習を推進します。

- 令和 4 年度は、市内小学校 3・4・6 年生 1,916 名と中学校 1・2 年生 1,425 名が集団宿泊体を行いました。

・科学教育センターでは、小中学校の観察実験学習や市民の科学体験教室等の催しを通して、地球環境やエネルギーに関する学習を推進します。

- プラネタリウムでの投影において、真岡市から見える星空を映し出し、季節ごとの星や星座の解説を行いました。また、団体利用においては、利用した多くの団体が「星の特徴」や「月の動き」などの学習プログラムを利用し、天体についての学習を行いました。プラネタリウム一般公開日数 31 日（延べ 65 回）の実施で 1,534 名、プラネタリウム団体利用日数 53 日（延べ 59 回）の実施で 2,232 名が利用しました。
- 市民の科学体験教室においては、市内高校生を講師とした「スライムづくり」「発砲入浴剤づくり」、栃木県電波適正利用推進員協議会の方を講師とした「電波教室」を実施しました。開催日数 5 日（延べ 10 回）の実施で 281 名が利用しました。

- ・自然環境の保全のための重要地域について、学習できる資料整備を図ります。
 - 平成 28 年 2 月に「第 2 次真岡市動植物実態調査報告書」を作成し、自然環境の保全を図るうえでの 4 つの「重要配慮地域」と 4 つの「配慮地域」を選定しました。また、普及版として作成したパンフレットを市役所内に配架しました。
- ・その他
 - にのみや野外活動センターは、鬼怒川に隣接した自然環境を生かし、野外活動体験をとおして自然・環境への理解を深める場となっています。令和 4 年度は、中学生以下 205 名、一般 503 名、合計 708 名（うち宿泊者 89 名）の利用がありました。
 - 水処理センターは、快適な生活環境の確保と河川の水質汚濁防止を目的として建設されました。毎年、市内の小学 4 年児童が施設見学に訪れ、水処理センターの役割や水の循環利用などの環境について学習します。令和 4 年度は、11 校児童 514 名、引率 42 名、合計 556 名の見学がありました。

V. 根本山自然観察センター 令和 4 年度行事内 (18 回開催、参加延べ人数 385 人)

開催日	行事名	参加人数
4 月 8 日	おとなの自然観察～スマレを観察しましょう～	14 名
5 月 3 日～5 日	丸太切り体験	91 名
5 月 8 日	春の草花遊びと草花学び	15 名
5 月 11 日	キケンな虫や草をおぼえよう	12 名
7 月 16 日	オオムラサキを観察しよう	25 名
9 月 10・11 日	虫とり名人になろう	48 名
10 月 15 日	土にもぐったキノコを探そう	21 名
11 月 12・13 日	竹ぽっくりを作ろう	34 名
12 月 17 日	落ち葉のプールを作って遊ぼう	37 名
12 月 25 日	お正月飾りを作って飾ろう	24 名
1 月 8 日	リスのくる林づくり	18 名
2 月 9・10 日	小枝でおひなさまを作ろう	18 名
3 月 25 日	自動撮影カメラ上映会	28 名

W. 鬼怒水辺観察センター 令和 4 年度行事内容 (2 回開催、参加延べ人数 29 人)

開催日	行事名	参加人数
6 月 19 日	カイツブリの親子を見よう	6 名
10 月 2 日	赤トンボをつかまえよう	23 名

Y. 科学教育センター 令和4年度行事内容

1. プラネタリウム公開内容

公開日数31日（延べ65回実施）、延べ1,534名利用

期 間	内 容
令和4年5月7日（土）～6月11日（土）	春のプラネタリウム一般公開・番組公開
令和4年6月25日（土）	プラネタリウム無料公開（県民の日協賛事業）
令和4年7月2日（土）、7月9日（土）	番組公開（2本立て）
令和4年8月1日（月）～5日（金）	夏休み公開
令和4年8月31日（水）	防災の日震災特別公開（無料）
令和4年10月1日（土）～12月10日（土）	秋のプラネタリウム一般公開・番組公開
令和5年1月14日（土）～2月25日（土）	冬休みプラネタリウム一般公開・番組公開
令和5年3月4日（土）、11日（土）	3.11震災特別公開（無料）

2. 市民の科学体験教室等内容

開催日数5日（延べ10回実施）、延べ261名利用

期 間	内 容
令和4年8月1日（月）	午前：スライムを作ろう 午後：発砲入浴剤を作ろう
令和4年8月2日（火）	午前：発砲入浴剤を作ろう 午後：スライムを作ろう
令和4年8月3日（水）	午前：スライムを作ろう 午後：発砲入浴剤を作ろう
令和4年8月4日（木）	電波教室（2回実施）
令和4年8月5日（金）	午前：発砲入浴剤を作ろう 午後：スライムを作ろう

○基本施策4-1 環境教育・環境学習の推進

●施策4-1-2 環境学習の様々な機会の提供と支援

【環境指標】（評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善）

指 標	平成26年度 基準	令和3年度 実績	令和4年度 現状・評価	令和7年度 目標	担当課
ごみ減量座談会の実施回数	90回	21回	21回 評価：△	66回	環境課
環境学習会の実施回数	—	12回	14回 評価：○	16回	
芳賀地区エコステーション 施設見学者数	3,079人	2,444人	2,645人 評価：○	3,600人	
真岡市リサイクルセンター 施設見学者数	—	69人	24人 評価：▲	450人	

【施策の展開状況】

・持続可能な開発のための教育（ESD）の視点に基づき、学校・地域などでの環境教育や環境学習の充実を図ります。

☛ 持続可能な開発のための教育（ESD）の視点は、新学習指導要領にも反映されており、小・中学校においては、幅広い教育活動において学習されています。特に小学校 6 年生の社会や中学校 3 年生の公民において、これまで学習・実践してきたことのまとめとして、持続可能な社会をめざす内容の学習を行っております。

・地域座談会を開催し、ごみ減量及び資源の循環についての理解を深めます。

☛ 施策 1-1-1 参照

・芳賀地区エコステーション・真岡市リサイクルセンターでは、施設見学を通して、ごみの減量化や 3R についての環境学習を推進します。

☛ 令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大対策を講じ、小学校の社会科見学を含め、施設見学者が令和 3 年度に比べ増加しました。49 団体延べ 2,669 名が施設見学を行いました。

施設見学者内訳 市内：29 団体 1,695 名、市外：20 団体 974 名

・国内初の内陸型火力発電所と連携し、施設見学を通して、エネルギーの大切さや地球温暖化防止についての環境学習会を推進します。

☛ もおか環境パートナーシップ会議と連携し、市内で稼働を開始した内陸型火力発電所である（株）コベルコパワー真岡において、工場の見学スペースを利用して地球温暖化防止をテーマに環境学習会を 2 日間開催し、36 名の小学生親子の参加がありました。その他にも、市内で操業している企業（（株）神戸製鋼所 真岡製造所、千住金属工業（株）栃木事業所）において環境学習会を 1 日ずつ開催し、59 名の小学生親子の参加がありました。

・学校・保育所等の活動において、必要に応じて環境学習の協力を行います。

☛ 小・中学校では、「理科」や「総合的な学習の時間」等で、動植物の観察や調査、環境問題等に関する学習を行っています。また、小学 4 年生では、社会科の中で使用する社会科副読本「わたしたちの真岡市」を通して暮らしの中でのごみ問題や水の関わりについて学習しています。そのほか、全小学校（14 校）を対象として、子供たちのアグリ体験学習（農業体験学習）を実施しました。

☛ 大内東小学校と真岡西中学校では、学校林を活用し、総合的な学習の時間に自然観察や保全活動に取り組んでいます。

☛ 各保育所では、花などの植物や農作物を育て、収穫した作物を調理したり、メダカやダンゴムシなどの小動物とのふれあい体験を実施しました。

・こどもエコクラブの活動を支援します。

☛ 市内 1 団体 100 名（真岡児童館 やさしくラブ）が、こどもエコクラブに登録・活動しており、市は事務局として連絡仲介、広報支援などを行いました。

☛ 真岡児童館やさしくラブにおいて、これまでの活動が認められ、令和 4 年度においては以下の表彰を受賞しました。

・令和 4 年度気候変動アクション環境大臣表彰 ユース・アワード賞（環境省 主催）

- ・市民活動推進センターでは、登録された環境学習活動団体の催し事開催等を支援します。
 - ➡ 登録されている9団体の催し事開催等を支援しました。

◎基本目標4 みんなで考え行動アップ

○基本施策4-2 環境保全活動の推進

●施策4-2-1 環境保全に関する情報の共有

【施策の展開状況】

- ・環境基本計画に関する年次報告書を作成、公表し、環境に関する情報の共有を促進します。
 - ➡ 年次報告書を市内企業・団体等に配布するほか、市ホームページに掲載しました。
- ・環境に関する学習会や催し事、環境保全に関するボランティア活動の情報を「広報もおか」、「ウィークリーニュースもおか」及び市ホームページ、並びにケーブルテレビ等で提供します。
 - ➡ 随時、提供しました。また、市内だけではなく、県内や県外にも発信される配布物やメディアにも情報提供を行いました。

○基本施策4-2 環境保全活動の推進

●施策4-2-2 各主体の環境保全活動の支援

【施策の展開状況】

- ・地域や市民が安心して環境保全活動を行えるよう、市は市民ボランティア活動に関する保険制度により、万が一の事故に備えます。
 - ➡ 真岡市民または市内でボランティア活動を行っている方等に対して、傷害事故と賠償責任事故について補償しています。
- ・市民活動推進センターでは、登録された市民活動団体の情報発信や活動の支援を行います。
 - ➡ 市民活動推進センターでは、年4回発行される広報紙コラボにおいて登録された市民活動団体の情報提供を行うと共にその団体の活動を支援しました。
- ・その他：各主体による環境保全活動としては以下のようなものがあり、市役所は事務局をするなどして、活動を支援しました。
 - ➡ 「真岡の自然を守る会」は、真岡市公民館真岡西分館を拠点に活動しており、令和4年度は7月に鬼怒川・小貝川クリーン大作戦として自然教育センター周辺の河川敷清掃を、2月には白鳥観察と併せて田島大橋付近の五行川河川敷清掃を実施するとともに、「春の七草寄せ植え」の市内小学校等への配布を行いました。
 - ➡ 「真岡自然観察会」は、SAVE JAPAN プロジェクトに参加し、自然観察会や自然環境保全に関する啓発などの活動を行いました。
 - ➡ 「とちぎ元気な森づくり県民税事業」や「もおかの明るく安全な森づくり事業」では、地元住民で組織した管理団体により、下草刈りや清掃活動などの里山林の保全管理作業が行われました。(施策2-1-1参照)
 - ➡ 地域公民館活動では、花いっぱい運動を主催しました。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、写真審査を実施し、64館から申込がありました。

- 西沼地区、宿中地区、赤羽地区、清水地区、東大島地区、若旅地区では、多面的機能支払交付金事業に取り組んでいます。各地区では、水路・道路の草刈り、土水路等の保全を行いました。
- 真岡工業団地総合管理協会の環境部会では、隔週水曜日、五行川及び鬼怒川に排出する工業団地からの総合排水にかかる水質調査と、環境パトロール及び工業団地内の一斉清掃をそれぞれ年2回実施しました。

○基本施策 4-2 環境保全活動の推進

●施策 4-2-3 協働による環境保全活動の推進

【環境指標】 (評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善)

指標	平成26年度 基準	令和3年度 実績	令和4年度 現状・評価	令和7年度 目標	担当課
協働による環境保全ボランティア活動に関心のある市民の割合※1	44.2%	42.1%	44.1% 評価：◎	40.6%	環境課
自然環境の保全活動に参加している市民の割合※	12.5%	26.7%	31.5% 評価：◎	30.0%	

※1 令和5年度市民意向調査による (対象者1,298名)

【施策の展開状況】

- 市民、事業者、行政の協働による環境保全活動の推進を図ります。
 - 栃木県では、平成28年3月に「生物多様性とちぎ戦略」の改定を行い、平成28年度からの5ヶ年の後期重点プロジェクトの一つとして「人、地域、企業、団体等の協働推進プロジェクト」を掲げており、企業と地域住民・保全活動団体とのマッチングによる社会貢献活動の推進を目指しています。本市では、平成18年2月に市民、事業者、市の協働による環境保全活動を実現する「もおか環境パートナーシップ会議」を設立しました。
- 「もおか環境パートナーシップ会議」の一層の機能強化を図り、環境保全活動を推進します。
 - 温室効果ガス排出量削減のため、生活の中で省エネ・低炭素型の「製品」、「サービス」、「行動」など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を国民一人ひとりに促す取組みである「COOL CHOICE」に参画しています。
 - 大久保地区モデル事業部会では、「自然ふれあい園“大久保”」で、市民と企業の協働により園内の保全管理、ホタルの飼育、里山林の管理、花や野菜の栽培、動植物の調査を行いました。

令和4年度の登録人員等：個人60名、企業13団体

令和4年度の活動参加人数：延べ1,105人（令和3年度：延べ610人）
 - 広報部会は、「自然ふれあい園“大久保”」の紹介リーフレットと、会報誌の作成を行いました。
 - これまでの活動が認められ、令和4年度においては以下の表彰を受賞しました。
 - 脱炭素チャレンジカップ2023 優秀賞（地球温暖化防止全国ネット 主催）